

提案発表

第6学年 音楽でつなごう 仲間・ふるさと・未来の自分と — 豊かな心を育む「にっぽんのうた」 —

那賀郡 相生小学校 鈴木千昌

1 はじめに

「にっぽんのうた」「こころのうた」離れが進んでいる。子どもたちを取り巻く環境は目まぐるしく変化し、携帯電話やタブレットは、今や、一人一台も珍しくなくなった。好きな音楽をいつでも自由に聴ける時代になり、新しい歌はすぐに広まり、リズム感や音感の優れた子どもも増えたと感じる。

一方で、世代を越えて歌い継がれてきた童謡や唱歌、手遊び歌、子守歌等は、いつしか子どもたちの生活から離れたものになりつつある。豊かな自然と温かい地域の人々に囲まれた本校においても、子どもや家庭の暮らしの変化は同様に進んでいる。アンケートでは、童謡を知る者と知らない者との差が大きく出た。

童謡・唱歌を体と心にしみ込ませていくことは、日本語の美しさや日本人の四季を愛でる感性の素晴らしさを知ることであり、人々の暮らしや文化を受け継いでいくことでもある。今一度、そのことを胸に留め、学校で歌わなければ伝承が難しくなった日本の宝との出会いの場を作っていかなければと強く感じている。

2 研究内容 「音楽でつなごう」 ～3つの視点で見ると、豊かな心を育む音楽活動の工夫と評価～

- (1) 仲間との絆を深めるために
- (2) ふるさとを大切に思い、人や自然とつながるために
- (3) 自分の生き方を考え、未来の自分に届けるために

3 研究の実際

- (1) 仲間とつなぐ音楽活動
 - ①よりよい表現を求め、対話しながらつくる音楽活動 ～「おぼろ月夜」の実践から～
 - ②全校で楽しむ音楽集会の取組
- (2) ふるさとの人や自然とつなぐ音楽活動
 - ①童謡・唱歌を身近なものにするための環境づくり
 - ②統合前の各小学校の校歌や地域に残る音楽にふれる機会づくり
- (3) 未来の自分とつなぐ音楽活動
 - ①作詞者・作曲者の生き方や思いを探る活動
 - ②「自分にとっての音楽」について考える機会づくり

4 結果の考察

- (1) 目的や内容に応じ活動人数を調整したことで、話し合いが活性化し、互いの考えや思いを知るとともに、音楽的な見方・考え方に気付き、工夫するポイントや思いを共有しながら表現することができた。

全校での音楽集会では、季節の歌や仲間づくりの歌に触れ、輪唱やリズム遊び等も楽しんだ。「みんなの顔を見ながらいっしょに歌えてうれしかった」といった内容の感想が進んで言える児童も多かった。
- (2) 写真や映像等、視覚情報を取り入れることは、どの児童にとっても、曲の世界に入り込み、イメージをふくらませるために有効であった。校内放送や掲示物、撮影動画などを使って曲紹介をするなど、対象を意識しながら表現する活動を多く取り入れたことで、意欲が向上し、作品への思いも深まった。
- (3) 言葉や歌詞の意味を調べ、歌詞を朗読したり、現代風に訳したりすることにより、言葉の響きやリズムを感じたり、昔の人々の暮らしや思いを想像したりすることにつながった。

作詞・作曲者の生きた時代や曲が生まれた背景、同じ作り手による他の作品などについて調べることで、その曲に込められた思いを想像し、自分の生活や今後の生き方につなげたいという思いが生まれた。

5 今後の課題

これまでの学習が、一時的なものに終わることなく、生涯を通じて音楽に親しみ、暮らしを豊かにしていけるよう、心が動く音楽活動づくりに努め、「自分にとっての音楽」の価値を常に意識させながら進めたい。

評価においては、ワークシートや発言の内容、学習の様子を観察に加え、録画映像も頻繁に利用してきたが、さらに多面的に、細やかな見取りをしていく方法や、児童への評価の伝え方について探っていきたい。